

学校再編ニュース

《第11号》(平成26年2月26日発行)



《発行》 小樽市教育委員会(適正配置担当)
 電話 0134-32-4111(内線 537)
 FAX 0134-33-6608
 Eメール gakkō-tekisei@city.otaru.lg.jp

～ 市民の皆さんの理解と協力により学校再編を進めています ～

今回は、昨年11月15日以降に開催した「中央・山手地区」「南小樽地区」の懇談会の状況や、平成28年4月の塩谷中と長橋中の統合に向けて発足した「塩谷中・長橋中統合協議会」、手宮地区3小学校や色内小、稲穂小、長橋小の統合に関係する三つの統合協議会での協議内容などについてお知らせします。



塩谷中学校・長橋中学校統合協議会が発足

平成25年11月28日と平成26年1月28日に塩谷中と長橋中の統合協議会を開催しました(詳しくは、4ページを御覧ください)。

また、昨年4月に祝津小と統合した高島小で進めている新しい学校づくりについてお知らせします。

学校再編ニュースは、市のホームページに掲載しています。

小樽市 学校再編 で 検索

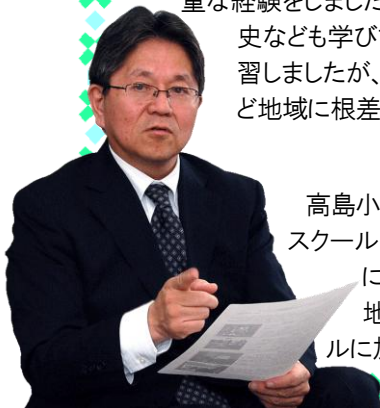
魅力ある地域をいかした高島小の教育を！

昨年4月に祝津小と統合した高島小について、吉田志津雄校長から話をお聞きしました。

…新しい高島小の「ふるさと学習」…

統合で、祝津小在校生6人が高島小の仲間になりました。最初は、大きな学校に来て不安だったかと思いますが、事前の児童交流などで友だちもできて、スムーズに統合を迎えられました。

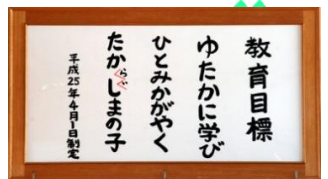
校区が大きく広がった高島小。祝津地区の海やニシン漁の歴史、水族館など、豊かな教育資源を活用した「ふるさと学習」を行いたいと考えました。そこで、祝津小でも行っていたことですが、おたる水族館に御協力をいただき、海に生息する生き物の学習やバックヤード見学、飼育員の仕事を体験。子供たちは、とても貴重な経験をしました。また、鯨御殿では小樽のニシン漁の歴史なども学びました。今年度は、祝津地区を中心に学習しましたが、赤岩・高島地区の自然や歴史も学ぶなど地域に根差した学校づくりをしていきたいですね。



高島小 吉田校長

…めざせ！たからじま小学校…

統合を前に、保護者や児童、地域の皆さんにアンケート調査を行い、新しい学校に対する思いや願いを取り入れた教育目標。『ゆたかに学び』は、自ら進んで学習に取り組み、夢に向かって最後まであきらめず努力する、『ひとみかがやく』は、楽しく充実した学校生活を送る高島小の児童を目指しています。魅力ある地域に囲まれた高島小の児童は、まさに「たか(6)し(6)ま」小の子です。



校長先生が書いた教育目標

…国際感覚を養う「ユネスコスクール」に…

高島小でのもう一つの新しい取組が、昨年4月に認定を受けた「ユネスコ ユネスコスクールの認定パートナー」です。市内の学校では初めてで、ユネスコの理念に基づき人権や平和、福祉、異文化などについて学びます。福祉の学習として校区内の福祉施設と交流を行っていますが、自分たちの地域を知る「ふるさと学習」に通じるものもあります。いずれは、インターネットを通じて同スクールに加盟する約9000校(180カ国)と交流し、子供たちに見聞を広めてほしいと考えています。



中央・山手地区

中央・山手地区では、入船小の学校再編について話し合っています

懇談会の開催状況

平成25年11月21日 入船小（保護者・地域）

■ 教育委員会からの説明内容 ■

- 平成24年11月の懇談会で提案した、入船小の校区を三つに分けて、花園小、山手地区統合校（緑小・最上小）、奥沢小（南小樽地区）と平成30年4月に統合する考えについてあらためて説明し、通学距離の平準化や安全な通学経路を確保する観点などから、入船小の具体的な校区の分け方について提案しました。

◆ 参加された方からの主な意見など ◆

【保護者から】

- 通学路の除雪など安全な通学路を確保してほしいとの要望があり、教育委員会から、これまで各学校の除雪要望をまとめ、市の担当部署に要請していること、統合に向けて、通学路の安全点検など安全対策に取り組んでいくことを説明しました。
- 新1年生の体力を考えると、1kmを超える通学が可能なのかとの意見があり、教育委員会から、1km程度であれば徒歩での通学が可能と考えていること、また、登下校にあたり、見守り活動等で町会などにも協力いただけるよう、統合協議会で取り組んでいきたい旨説明しました。
- 入船小の自然を違う形でも残してほしいとの要望があり、教育委員会から、市で閉校後の学校施設の活用方法をまとめ、地域へ活用案について伺う機会を設けると聞いており、要望については担当部署に伝える旨説明しました。
- 学校再編により浮く予算を人件費等に割り当て、40人に満たない場合でも2学級にするなどしてほしいとの要望があり、教育委員会から、市の経費で独自に教員を配置することは現状では難しいと考えており、これまでも取り組んでいる北海道のティーム・ティーチング加配などの制度を活用して、今後もきめ細かな授業を行いたい旨説明しました。
- 校区が分かれるが、こちらの学校はあまり良くないなど不平等なことが起きてほしくないとの意見があり、教育委員会から、統合に際しては、単に校区を一つにするのではなく、統合を機会に特色ある学校づくりを進めている旨説明しました。



南小樽地区

南小樽地区では、奥沢小と天神小の学校再編について話し合っています

懇談会の開催状況

平成25年12月3日 奥沢小・天神小合同（保護者・地域）

これまでの懇談会で、奥沢小と天神小の合同の懇談会開催について要望があり、今回、2校合同の懇談会を開催しました。

■ 教育委員会からの説明内容 ■

- 南小樽地区小学校Bグループは、天神小と奥沢小、隣接する入船小の校区の一部を平成30年4月に統合すること、統合までに奥沢小の耐震診断及び耐震補強工事などを予定していることを説明しました。
- 統合に向けての今後の進め方として、学校再編に御理解をいただいた後、統合協議会を設置して、円滑な統合に向けて諸課題を協議していく旨説明しました。

◆ 参加された方からの主な意見など ◆

【保護者から】

■ 学校再編に反対する気はないが、今後進めていくのであれば、通学路の除雪や奥沢小の改修工事について具体的な説明がほしいとの意見があり、教育委員会から、これまでの改修工事の事例として、奥沢小と同じ頃に建てられた花園小では、トイレの洋式化のほか、床や壁、暖房や照明設備などの改修を行ったことを紹介し、また、除雪の充実を担当部署に要請するなど、安全な環境整備に努めたい旨説明しました。



■ 学校が減っても、学校図書館に魅力的な本を増やすなど、教育予算を確保してほしいとの要望があり、教育委員会から、市立図書館との連携により図書環境の充実を考えていること、また、統合を契機に、新しい学校づくりに向けた教育予算の確保に努めたいと考えている旨説明しました。

【地域から】

- ◆ 奥沢地区では大きな問題や要望などはないが、天神地区の方々の気持ちや経過を把握しながら、これからの会合の中で、天神地区の方々とも相談して進めていきたいとの意見がありました。
- ◆ 児童にとっては、人数が多い中で教育がなされることが良いと思うので、全市的に再編時期をスピードアップしてはどうかとの意見があり、教育委員会から、奥沢小と天神小の再編は、山手地区統合校とも統合する入船小との関係もあり、平成30年4月の統合と考えている旨説明しました。
- ◆ 3校を統合しても1学級となる可能性があるのであれば、潮見台小に全て統合してはどうかとの意見があり、教育委員会から、平成25年5月1日現在では、統合時において、全学年2学級になると推計している旨説明しました。
- ◆ 統合の決定時期について質問があり、教育委員会から、閉校となる学校の保護者や地域の皆さんの理解を得て今年度中に決定し、平成30年4月の統合に向けて、できるだけ早く統合協議会の立ち上げを進めたいと考えている旨説明しました。

中央・山手地区、南小樽地区の学校再編(案)

